

## 新会員卓話 森 豊彦 会員

本日の新会員卓話は「我が社の自慢」に付いて話をさせていただきます。

皆さんは長年働いている自分の会社でこれだけは胸を張って社外の人に自慢出来る事がありますでしょうか？

私は大学卒業後、日本建設(株)に入社し41年を迎えますが、家族はもちろん社外の方々に誇らしく自慢の出来る事が一点あります。

この自慢話は広島支店在籍時にお世話になっていた広島西南ロータリークラブでも卓話にて紹介させて頂きました。

その自慢というのは京都・嵐山の天龍寺内の松巖寺に当社の慰霊碑がある事です。その慰霊碑は当社の創業者であります生田重政初代社長が亡くなられ、一周忌にあたる昭和59年6月17日に完成し、全国より200名余りの参加者が集い、当時の天龍寺総館長の平田精耕老師の読経によりしめやかに開眼法要が行われたと聞いております。私の入社が昭和60年ですので入社する1年前の事です。

その慰霊碑には「俱會一處：ぐえいいっしょ」という文字が刻まれています。私はこの言葉が大好きです。これは私達残された者も、ここにお参りする事によって故人達と親しく交わりあえるという意味です。

この慰霊碑には亡くなられた当社の社員と協力会社代表の方々の名前が刻まれた石を収めており、慰霊碑の右側には埋納されている社員の方々、左側には協力会社の方々のお名前が刻まれています。

毎年6月に本社と全国7支店より社員・当社OB・協力会社約100名が参加し、この松巖寺にて慰霊祭を執り行っています。毎年創業者の月命日であります6月に慰霊祭を行っていましたが、せっかく全国より嵐山に集まるなら紅葉の綺麗な11月にしてはとの意見が多く出た為、今は11月に慰霊祭を執り行っています。

私はこの慰霊碑を誇りに思う為、家族も2度ほど連れて行き慰霊碑に参ったことがございます。この話をした方々に「森さんも亡くなられたらこの慰霊碑に入られるのですね」と良く聞かれますが、此の慰霊碑に埋納されている上司・先輩方

中には私が入社したころよくこっぴどく怒られた方々が沢山眠られているため、入ってしまうと又、昔の様に怒られてばかりいる予感がして入るかどうかためらっているとお答えしています。

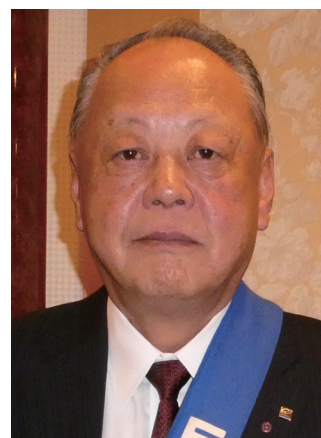
ただこの慰霊碑に参る時、自分がどうしていいのか迷っているとき心の中で相談すると「お前のやりたいようにやれ！」と背中を押してもらっているような気持ちに成ります。不思議なものです。

社員にもよく公私共に悩みが有れば天龍寺の慰霊碑の前で相談してみろ、背中を押してくれるぞってな事を言っています。

又、この天龍寺には有名な「龍の天井絵」と見事な紅葉が見れる「曹源池庭園：そうげんち」があります。龍の天井絵は日本絵画加山又造により天井に直径9mの八方睨みの龍が描かれ、天井絵を中心に天井を見上げ歩くと、最初から最後まで龍の目が自分を睨み続けるという特殊な技法により描かれています。又、本来龍の指は3本ですがこの睨み龍は五爪の龍、すなわち人間と同じ権威を持つ龍と言われており、五爪の龍は日本に3匹しか居らず、その一匹が天龍寺に居るという事です。曹源池庭園は池の周りにある幾種もの木々が秋になれば紅葉が大変美しく、嵐山の名所ともなっています。龍の天井絵も曹源池庭園も入場料が必要ですが、慰霊祭当日は日本建設関係者は無料で見られます。

会員の皆さんもこれから先、京都嵐山に行かれた際は是非天龍寺に行ってください、私の自慢を満喫して頂きたいと思えます。

本日は私の「我が社の自慢」についてお話しさせて頂きました。ありがとうございました。



### ■本日のロータリーソング

## 君が代、四つのテスト

2025-2026年度  
国際ロータリー会長のメッセージ

国際ロータリー会長：フランチェスコ・アレツツォ

よいことのために  
手を取りあおう